

地方支部長が抱負を語る

北海道地方支部長

松本順一

▽▲▽▲ 座右の銘 精神一到 ▲▽▲▽

新年おめでとうございます。謹んでお慶び申し上げます。

北海道管内における組合活動の、新しい年の抱負ですが、北海道では稚内市の道北支部、釧路市の道東支部、函館市の道南支部、そして、この3支部を統括する北海道地方支部（苫小牧市）の4つの拠点で、組合活動を展開しています。今年もさらなる組合活動を展開していく所存です。

北海道管内における今年の活動やトピックスを振り返りますと、新造船就航のお祝いのものでは、函館ポートサービス株式会社のタグボート「ともえ」と「いちい」の2隻が無事に就航し、港の縁の下の力持ちとして活躍していることです。次に海に親しむ活動関連では、6月に小樽市立稲穂小学校の5年生の児童、68人を対象に「学び舎 船と船員さん教室」を開催し、

- ① 船員さんのお話教室
- ② ロープワーク教室
- ③ チャートワーク教室
- ④ 操船シミュレーター教室
- ⑤ 船の標本教室—など、

職場委員と執行部が協力し合って、陸上では体験できない内容の授業を行い、児童たちに好評を博したことです。

また、11月には北海道函館水産高等学校で開催された「なるには説明会」で講師を務め、船員職業に関心を寄せた本科2年生24人に、船員の仕事と生活、そして魅力について伝えました。

北海道では今年の春に知床半島沖で、本組合に未加入の遊覧船が沈没するという痛ましい事故があり、観光船に対する風評被害もありますが、斜里町ウトロ漁港から発着する本組合に加入している道東観光開発株式会社の「おーろら」（491トン・定員390名）では、救命艇や自動膨張式救命いかだの動作確認を中心に、人命最優先の訓練を行い、現場組合員が一丸となって、安全性のPRに努めています。

北海道の各支部とも、漁船関係を主に担当していますが、将来の漁船漁業や観光船を担う船員後継者の確保・育成のために今年も尽力します。

「海員だより」